

学びの郷南魚沼プラン  
トライアル（キックオフ）企画案

学びの郷南魚沼プラン実施検討委員会

タイトル案：地域の宝をみんなで探そう！We♥ 南魚沼

趣旨：

学びの郷南魚沼の趣旨（基本理念「**学びあい、教えあい、伝えあい、そして輝く、わたしと地域**」）を市民に周知告知するために、学びの内容（何を）、対象（誰と）、手法（どのように）を、体験的に理解する連続的な活動を、市内全域で展開する。予算は、既存の枠で行うやり方もあれば、ふるさと納税を活用する方法もあり、いかようにも展開できる。

活動内容：

「住み続けられる、子どもたちが帰ってくる事ができる南魚沼」を市民みんなで再確認する活動。南魚沼の資源、資産を市民自らが確認し、今後の学びの土台とする。

期間：2018年（平成30年）通年。キックオフ大会を5月連休に設定。

取り組み内容：

（宝探し活動）

市民が市内を歩き、人を訪ね、ものを調べ、家族の、集落の、そして市の宝物を探す。宝物は、自然、文化、伝統、暮らしなど、地域に関わるあらゆるもの。そこにつながる物語や歴史、関わる人々などの情報を集める。

（宝物の記録と共有）

見つけた「宝物」について、広く配布する「南魚沼の宝探しカード」に記入し、市役所に届けてもらう。ウェブサイトでの投稿、フェイスブックやInstagramの特設ページへの投稿も受け付ける。集まった宝探しカードは、市内約230の行政区（いわゆるムラ）ごとに分類して、各庁舎ロビーや市民会館、大規模商業施設などを巡回展示するほか、ネット上で検索表示できるようにしていく。

（モデルプログラムの開発）

最終的には、集まった宝を元に、次年度以降に向けたモデルプログラムを開発する。

宝物とは：

自然であれば、季節ごとの素晴らしい景観、大きな木、きれいな雪解け水の流れ、道端の小さな草花、芽吹き的美しさと山菜、山菜のこのおばあちゃんの調理や保存の方法。自然が人や暮らし、歴史と関わることでさらに深みが出てくる。

町の中を歩けば、神社仏閣小さなほこら、石塚、家並み、通りの配置、それ

それぞれの家の職業など人々の暮らしの今と昔に目を凝らす。

野に出れば、田んぼの光景、その田んぼにいる小さな生き物たち。空を飛ぶ鳥。ツバメの巣の様子。田んぼで育つ稲の葉っぱの枚数。カエルの色の違い。たも網を持っていけば、用水でひとすくいすると中にうごめいているさまざまな種類のヤゴ。拡大鏡でのぞけば背中に小さな羽根が付いている。田んぼで動いている田植え機。仕組みをよーく見てみると、人間の手のように苗を数本づつかきとって植え込んでいる。お年寄りに聞けば、どうやって田植えをしていたか話してもらえ。機械が入る前の田植えはどうやっていたのか。学校や休みになり、家族親戚、まき一同が助け合い、そして天皇家に献上したという「献穀田」も見つかるかもしれない。

地域を歩き、不思議だな、あれっと思ったことをじっと見て、周りにいる人に話を聞いて、自分の目でこの地域を発見する。それが宝探し。

もちろん、お年寄りが自分の自慢の技やお話をそのままお宝として書いてもらってもいい。しかし、ご本人たちは当たり前と思っていることが、いまでは忘れられた美しい宝であることも少なくない。だれかと話をしたり、一緒に何かの作業をしたりすると、とんでもない知恵や技が飛び出してくることがある。

展開スケジュール：

(キックオフセミナー)

5月連休ごろ、浦佐、六日町、塩沢の3地区の公民館などで実施。学びの郷南魚沼の基本コンセプトの説明と、南魚沼の宝探しの取り組み方法の告知。お手本となる体験宝探しも行い、実体験してもらう。

(宝探しを各地で展開＝初動期)

5～6月の陽気がいい時期の週末などに、各集落などで宝探しを実施してもらう。宝探しカードは、公民館や各庁舎などで回収し、原本を生涯学習センターに集中。コピーをそれぞれの庁舎ロビーなどに展示していく。展示されたカードには、来庁者らに「いいね」シールを貼ってもらったり、追加情報をポストイットで貼り付けたりしてもらう。

センターでは、コピーをもとに、パソコンに入力し、市内約200の行政区(いわゆるムラ)ごとに分類して、検索表示できるようにしていく。

この実施の様子を市報で流すほか、テレビや新聞でも報道して、南魚沼の宝探しを内外にアピールする。

(夏休みの宝探し＝本格期)

夏休みをターゲットに、単独あるいは関連する複数の行政区ごとに、集落界隈での「宝探しイベント」を奨励する。小中学校での夏休みの課題などとしても使ってもらえるよう、学校に告知する。

住民らと帰省者らが一緒になって集落での宝物探しを行い、集落施設に張り出すなどの、ふるさと再発見活動なども奨励する。

生涯学習センターなどで、発見した宝物をどう表現するか技術講座(スマホでの写真講座やフェイスブック利用法交換会、英語で発表するための英語

塾)などを、市民自らが企画実施する。

(中間発表会)

秋には中間発表会を改装なった生涯学習センターで行う。壁一面を使って宝探しカードやポスターを張り出すほか、多目的ホールでのスライドなどを使った発表も行う。

データの取りまとめ作業に入る。分類、評価して整理し、地域別、課題別などに整理を進める。

(モデルプログラムの策定)

集まってきた宝物を軸に、新年度に向けたモデルプログラムの策定に入る。

世代別、課題別、地域別、季節別などにテーマを分け、複合的に学びを展開できるように工夫する。

予算：

市民による自律的な運営を目標に、出来るだけ、市民が自らの時間と特技を持ち寄って運営できるスタイルを追求する。このため、計上されている予算だけでも、出来る範囲で運営する。

集まった「宝探しカード」の整理、入力、張り出しなどもボランティアと市職員の共同作業で行う。無料のウェブサイト (wordpress) やフェイスブックを舞台に情報を掲載していけば費用はかからない。市のウェブサイトにも一部を掲載してもらうことで市民を特設サイトに簡単に誘導することが出来る。

自然や文化の専門家にも趣旨を説明して、キックオフセミナーや中間発表会には、1人の参加者として積極的に加わってもらう。

もし、ふるさと納税などの特別予算枠が確保できたら・・・  
形になるもの、残るものに使う。

宝探しの現場や宝物そのものを記録するビデオ、写真、ビデオ、紙の資料などさまざまなデータを市の宝として残し、ふるさと遺産として収集、発掘していく仕組みをつくる。生涯学習センターに配置されるパソコンの中、あるいは外付けのハードディスクに、各種情報を整理蓄積していく。この業務に関して、必要になる機材や人件費 (普通に外部委託するととても高くなるので、出来るだけ、自前のアルバイトで)。

宝探しカードそのものも、最初はトライアルとしてなので、できれば役所のコピーで作成。予算があればその紙代や印刷代を計上。中間発表会の会場で配布するチラシや立て看板の制作印刷費もあればうれしい。